

公開講座「東京で考える沖縄・辺野古」第5回

なぜレイプがくりかえされるのか？

～米軍統治下の構造から～

2017年3月4日(土) 14:00～17:00

会場：明治大学駿河台キャンパス
グローバルフロント2階 4021教室

※参加申込み：資料準備の都合上、参加をご希望の方は事前に
メール (labored@meiji.ac.jp) でご一報下さい。

※参加費無料

米軍による性犯罪はなぜくりかえされるのか？

今回は、講師に、戦後沖縄の売買春問題を研究されている小野沢あかねさんを招き、米軍統治下で基地向け商売の需要の増大に伴って発展したコザ市（現沖縄市）における性産業の事例についてご報告いただきます。その上で、小野沢さんとの対話を通して性暴力がどのように歴史的・構造的に軍事基地と関わっているのかについて理解を深めることで、1972年の「復帰」以後も形を変えながら続く軍事支配の状況において、現在もなお繰り返されるレイプ問題について考えることを目的にしています。

性別を問わず、関心を持つ多くの方のご参加をお待ちしています。

小野沢あかねさんプロフィール：

立教大学教授（文学部史学科日本史学専修）。専門は日本近現代史・女性史・ジェンダー。主な著書に『近代日本社会と公娼制度』（吉川弘文館、2010年）、「米軍統治下沖縄における性産業と女性たち—1960-70年代コザ市」（『年報・日本現代史』2013年）、「女たちにとっての性産業」（『沖縄県史 各論編8 女性史』2016年）などがある。

※公開講座「東京で考える沖縄・辺野古」のウェブサイト：
http://www.kisc.meiji.ac.jp/~labored/activities/henoko_seminar.html

主催：明治大学労働教育メディア研究センター、明治大学島嶼文化研究所、
一橋大学大学院社会学研究科フェアレイバー研究教育センター